

道路行政セミナー2013年12月号 NO.063 2013年12月26日発行 ポイント

◆◆特集◆◆

★第20回 ITS 世界会議東京 2013 結果報告★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課 高度道路交通システム (ITS) 推進室)

ITSを推進する世界の関係者が一堂に会するITS世界会議は、9年ぶりの日本開催となり、2013年10月14日(月・祝)から18日(金)にかけて、東京を舞台に開催された。期間中、台風の影響により一部中止を余儀なくされたが、当初の予想を大きく上回る参加があり、大盛況のうちに会議の幕を閉じた。本稿では、会議の概要と結果について紹介する。

◆◆道路法令Q&A◆◆

★道路管理者の権限の代行規定について★

(国土交通省 道路局 路政課)

本稿では、各法律における道路管理者の権限の代行規定について整理し、紹介する。

◆◆TOPICS◆◆

★軽井沢六本社のラウンドアバウト社会実験について★

(長野県軽井沢町 企画課 都市デザイン室)

近年、日本国内でも注目されつつある安全でエコなラウンドアバウトについて、軽井沢町では町内交差点での取り組みを平成24年度の社会実験として実施した。事業を実施する事業主体にとっても、それを利用する住民にとってもゼロからのスタートであり、技術面ではもちろんのこと、利用者への周知活動についても多方面からの支援を頂いて社会実験が実施できたことを報告し、今後の課題等を示す。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★「尼崎道路公害訴訟・和解条項履行に係る意見交換終結合意書」
の締結について★

(国土交通省 近畿地方整備局 道路部)

尼崎公害訴訟は、提訴から12年を経て、原告団との間で和解が成立した。
途中、あっせん調停、和解条項等の履行に係る意見交換を行いながら、道路管理者として環境改善等の施策を実施してきたところである。
本稿では、これらの施策及びその成果等を含め、合意書締結までの経緯について報告する。

.....

★長崎県における道路インフラの維持管理について★

(長崎県 土木部 道路維持課)

長崎県において、予防保全的手法を導入した効率的かつ計画的な維持補修による施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図るために策定した維持管理計画についてご紹介します。

.....

★「坂の街」長崎市における独自の道路構造基準に関する取組み★

(長崎市 建設局 土木部 土木企画課)

「坂の街」長崎市では、道路構造令の縦断勾配で道路整備を行った場合、道路を迂回させなければならず、多くの用地が必要となり、事業費も大きくなることから、事業が長期化しています。そこで、道路整備を迅速に、効率よく進めるため、地域の特性に合った道路構造基準の見直しの取組みについて紹介します。

◆◆編集後記◆◆

冬は、強い北風が大気中のゴミを拡散してくれるとともに、乾燥によっても空気が澄み渡ります。晴れた日には、都内にある眺望のよい高層ビルや高台などからでも、富士山を眺めることができ、とてもさわやかな気持ちにさせてくれますが、空気の乾燥と同時に、インフルエンザウイルスへの感染が気になる季節でもあります。

本来、インフルエンザウイルスは、水鳥が腸内に保有しているウイルスですが、まれに、ニワトリや豚などの他動物に感染します。その後、他動物からヒトへと感染することがあり、これが繰り返されると、ヒトからヒトへと効率的な感染を引き起こすウイルスへと変異するといわれています。ヒトに感染するとされているインフルエンザウイルスは、大きくA型、B型、C型に分類され、毎年世界中で流行するのは、主にA型ウイルスによるものです。A型ウイルスは、亜型と呼ばれるいくつかの種類があり、表面に存在する糖タンパク質の種類の違いによって、HやNの記号で表されます。最近流行したものでは、香港型(H3N2亜型)やソ連型(H1N1亜型)などがあり、これらは季節性インフルエンザと呼ばれています。

また、ヒトの間で長い間流行していないインフルエンザウイルスを新型インフルエンザと呼びます。ヒトの人体は、一度感染したことがあるウイルスに対しては免疫機能が働くため、感染しないか、感染した場合でも軽症ですみます。しかしながら、新型インフルエンザに対しては、免疫を有するヒトが少ないことから、感染者が爆発的に増える世界的な大流行、いわゆる“パンデミック”が起こることがあります。過去には、世界中の多くのヒトが感染した1918年のスペインインフルエンザ(H1N1、スペインかぜ)、直近では、2009年の新型インフルエンザ(H1N1 2009)の流行がありましたが、多くの人が感染したことによって免疫を獲得したため、以降のパンデミックの可能性は低くなり、現在では、季節性インフルエンザとして取り扱われるようになっています。

インフルエンザウイルスへは、くしゃみや咳などで吐き出される微粒子(飛沫)が空気中に浮遊し、これらが体内に侵入することで感染します。特に、冬は空気が乾燥するため、のどの粘膜の防御機能が低下するため流行することが多いようです。感染すると、通常、1日～5日程度の潜伏期間を経た後、突然の高熱と全身の倦怠感、筋肉痛や関節痛など、辛い全身症状が現れ、また、場合によっては生命にも関わります。このため、自身の感染を予防するとともに感染範囲の拡大を防ぐことが大切であり、流行した場合には、人ごみを避けることが感染拡大の防止策のひとつとされています。

私自身、ずいぶん長い間、インフルエンザウイルスに感染した覚えがなく、また、免疫をつくるための予防接種も受けていないので、毎年、免疫はあるのか、感染しないだろうかと心配しているところです。自身の感染を予防しつつ、万が一の場合における拡大防止のためにも、外出時にはマスクの着用を心がけ、今冬を過ごしていきたいと思います。(U)